

ODR

RS-D7XII

SYSTEM CONTROL TUNER/CD
OPTICAL DIGITAL REFERENCE SYSTEM

取扱説明書

Pioneer

carrozeria*X*

オプティカル デジタル リファレンス システム
システム コントロール チューナー/CD

RS-D7XII

取扱説明書

このたびはカロツェリア Xシリーズ
ODRシステムをお買い上げいただき
まことにありがとうございます。

ご使用になる前に、この説明書を必ずお読みください。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので
保証書と一緒に大切に保管してください。

それでは、光デジタルの世界へご案内いたします。

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この説明書、取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

警告

[異常時の処置]

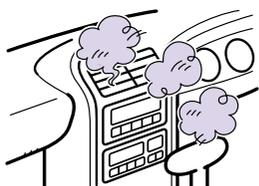
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

本書のみかた

－ 必ずお読みください － vi

本システムを使いこなすために、まず“本書のみかた”をご覧になり、本書を効果的にお使いください。

準備と予備知識 1

ようこそ光デジタルの世界へ 2

ご使用になる前にお読みください 4

メニュー表示のオープン/クローズ
状態について 6

本機のフロントパネルについて 7

使用環境を設定する 11

編集モードで文字を入力する 22

初めてお使いになるときは、必ずお読みください。最初に行わなければならないことや、確認してほしいことが記載されています。
組み合わせたシステムを確認し、そのシステムに合わせて、環境設定を行きましょう。

共通の操作 25

電源を入れる・電源を切る 26

音量調節 28

便利な機能 30

まず、ボリューム調節やソース切り換えなど、共通の操作を行います。

内蔵CDの操作 31

CDの正しい使いかた 32

内蔵CDを操作する 34

本機に内蔵のCDプレーヤーの操作を行います。

チューナーの操作 43

チューナーを操作する 44

本機に内蔵のAM/FMチューナーの操作を行います。

マルチCDの操作	53
マルチCDを操作する	54

別売のマルチCDを本機に接続したときの操作を行います。

DVDプレーヤーの操作	67
DVDプレーヤーをご使用になる前に	68
DVDプレーヤーを操作する	69

別売のDVDプレーヤーを本機に接続したときの操作を行います。

テレビの操作	79
テレビを操作する	80

別売のTVチューナーを接続したときの操作を行います。

付録	87
故障かな？と思ったら	88
機能別索引	92
仕様	94

“あれ？故障かな？”と思ったときは、修理に出す前に必ず「故障かな？と思ったら」の項をお読みください。
本書の検索には、「機能別索引」をお役立てください。

本書の見かた - 必ずお読みください -

この取扱説明書は、お使いになる機能に応じて、必要な部分をお読みいただけるような構成になっています。本書を効果的にお使いになり、光デジタルの世界を存分にお楽しみください。

マークについて

本書および別冊の取付説明書の中には、次の3つのマークが使用されています。



危険防止のために絶対に行わないでください

使いかたを誤ると危険をおよぼす可能性のある事項が記載されています。



故障を防ぐために必ずお守りください

使いかたを誤ると故障の恐れがある事項が記載されています。



より詳しい情報を知るために

機能や仕様上の制限、操作上の注意点、本システムを使いこなすためのテクニックなど、補足的な事項が記載されています。

クローズ状態で行うことができる操作について (リモコンマーク)



本システムはリモートコントローラーのカバーの開閉により、使用できる機能が異なります。

本書の中でリモコンマークが付いている操作は、カバーを閉じた状態で操作することができます。

リモコンマークが付いていない操作は、カバーを開けた状態で行います。

オーディオ機能の説明について

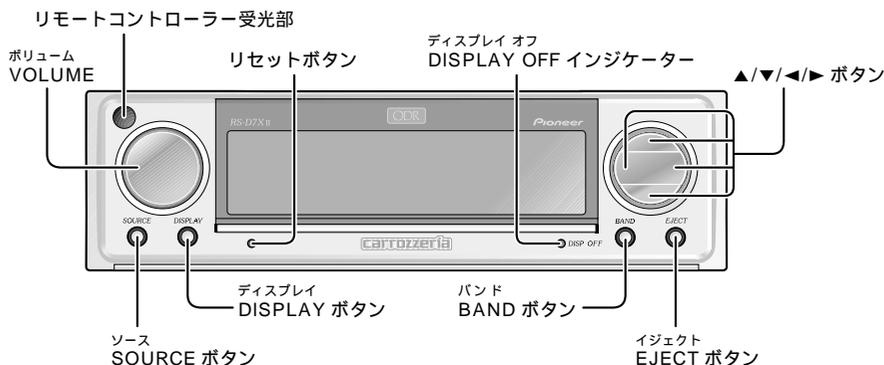
本書には、オーディオ機能の説明は記載されておりません。

オーディオ機能については、接続したオーディオユニットの「オーディオ機能」説明書をご覧ください。

各部の名称

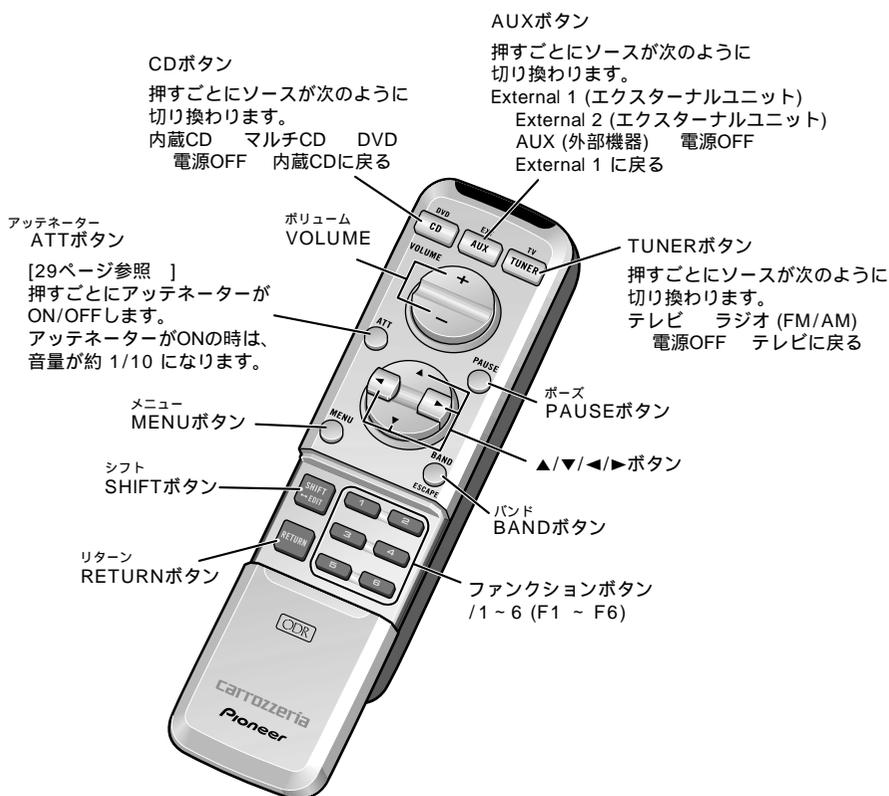
本システムは、一部の機能は「RS-D7XII」本体で操作しますが、ほとんどの機能はリモートコントローラーで操作します。操作に使用するボタンは、本書の中では次のように表しています。

システムコントローラーチューナー/CD「RS-D7XII」



リモートコントローラー

リモートコントローラーのボタン操作および開閉操作は、必ず、リモートコントローラーを本体のリモートコントローラー受光部に向けて行ってください。リモートコントローラーの位置によっては、正しく操作できないことがあります。



ディスプレイの遷移図

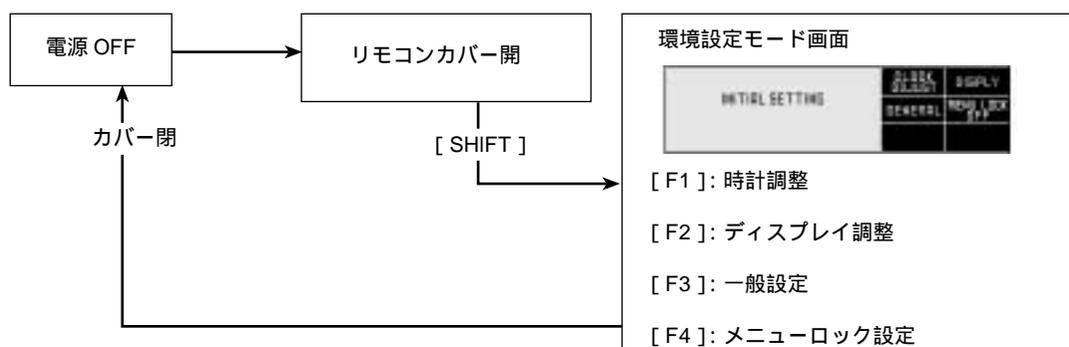
このディスプレイ遷移図は、ODRシステムの機能を、簡単に紹介した物です。

ディスプレイ遷移図では、リモートコントローラーで行う操作を紹介しています。

操作の対象となるボタン名称は、[] 内に記載しています。(例えば、ファンクションボタン/3は [F3] と表記しています。なお、ボタン名称の詳細については、“本書の見かた”の項 [vi] ページを参照してください。

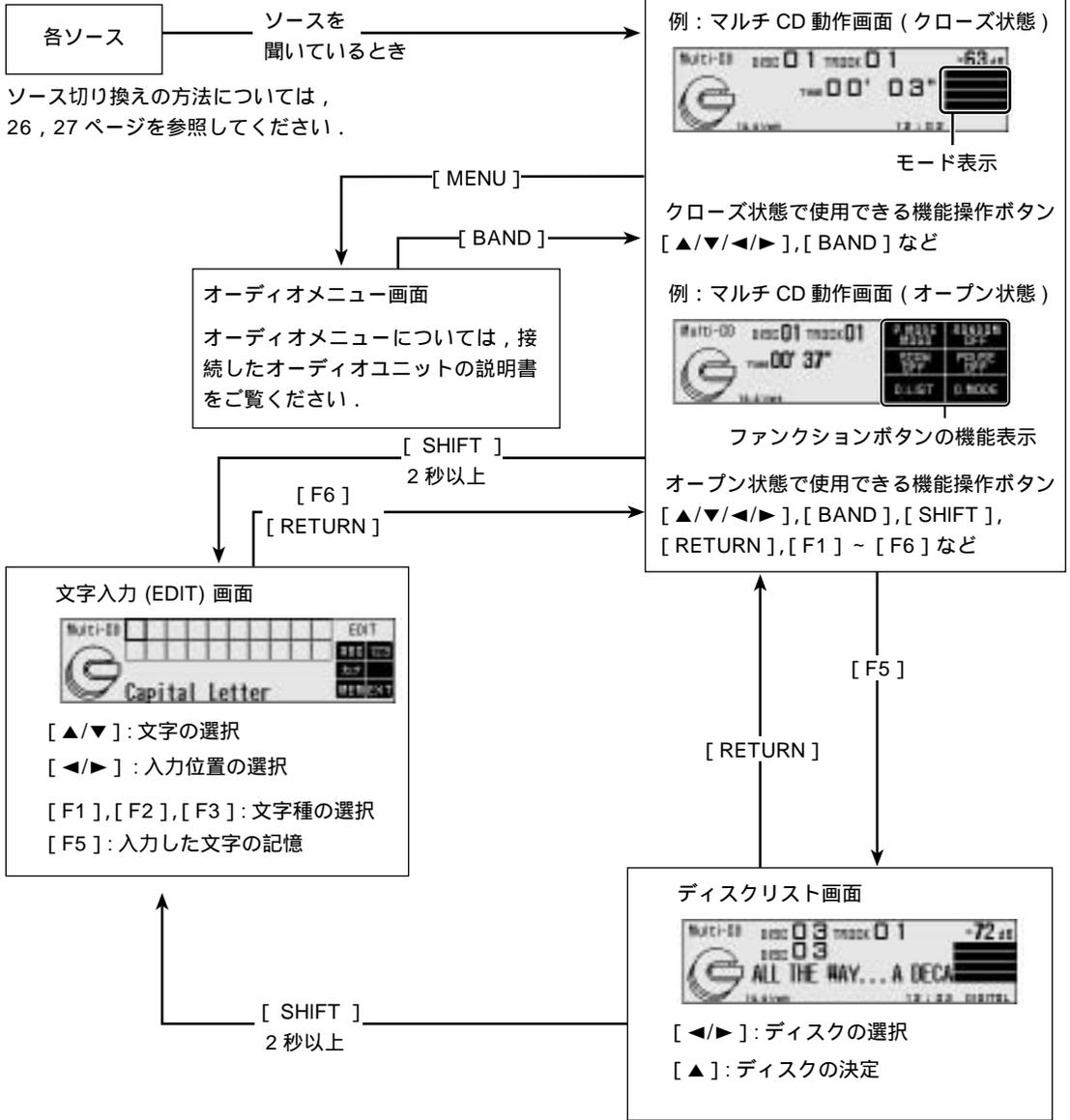
ここで説明している機能操作の詳細については、各メニューの説明箇所をご覧ください。

環境設定モード



[▲/▼/◀/▶] およびファンクションボタン /1 ~ 6 で、それぞれ環境の設定を行います。

共通の操作 / 各ソースの操作



準備と予備知識

ご使用になる前に、行わなければならないことや、確認してほしいことが記載されています。
組み合わせたシステムを確認し、そのシステムに合わせて、環境の設定を行いましょう。

	内 容		
ようこそ光デジタルの世界へ	2	時計の設定をする	12
より良い音質を求めて	2	時計調節画面に切り換える	
ODRシステムとは?	2	時計を合わせる	
ご使用になる前にお読みください	4	時報合わせをする	
保証書は受け取りましたか?	4	時計表示のON/OFF	
本システムの取り扱いについて	4	初期画面に戻る	
車のバッテリーを取り外したときは		ディスプレイの設定をする	15
リモートコントローラーの準備	5	ディスプレイ設定画面に切り換える	
メニュー表示の		ディスプレイの明るさを調節する	
オープン/クローズ状態について	6	夜間のディスプレイの明るさを切り換える	
本機のフロントパネルについて	7	背景のパターンを選ぶ	
フロントパネルの使いかた	7	ディスプレイの反転表示のON/OFF	
フロントパネルの開閉		一般環境の設定をする	17
デタッチャブル フロントパネルの使いかた	8	一般環境設定画面に切り換える	
フロントパネルの固定ネジについて		AUX (外部入力) の設定	
フロントパネルの取り外しかた		外部機器の名称を入力する	
フロントパネルの取り付けかた		供給電圧表示の設定	
使用環境を設定する	11	操作確認音をON/OFFする	
環境設定モードに切り換える	11	FMダイバーシティシステムの設定	
環境設定モードでの操作		メニューロックの設定をする	21
		環境設定モードを解除 (終了) する	21
		編集モードで文字を入力する	22
		文字の入力	
		編集モードを解除する	

ようこそ光デジタルの世界へ

より良い音質を求めて 理想の音場空間を創造するために

車室内での音響環境には様々な制限があります。車自体の形状、広さ、スピーカーの位置関係、電装品から発生するノイズなど、通常のホームオーディオとは全く異なる環境で音楽に接しています。

このような環境の車室内に、“より自然な状態で、最良の音を届けたい。”理想的な音場空間を創造する。ここから、ODRシステムは誕生しました。

ODRシステムとは？

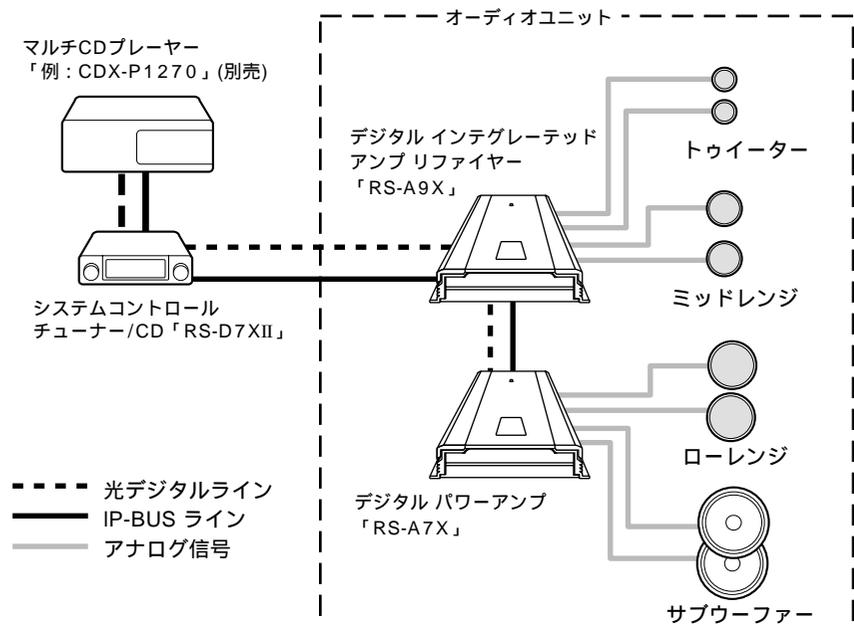
光デジタル伝送により音質劣化のない音を再現

ODR システムは、オーディオ信号が通る各ユニット間を、パワーアンプまで全て光ケーブルで接続し、オーディオ信号をデジタル信号で伝送することにより、音質の劣化を最小限に抑えたシステムです。

CDやDVDなどのデジタル信号はダイレクトで、チューナーなどのアナログ信号は一度デジタル信号に変換して、次のユニットへ送られます。音の出口であるスピーカー直前まで、デジタル信号を光で伝送するため、電源ノイズやその他の車特有のノイズの影響を受けずに、音を再現することが可能です。

ODR = Optical Digital Reference (オプティカル デジタル リファレンス)

システム構成例1：フル光デジタル伝送



システムアップを容易にするデータ通信方式

各ユニット間のデータ通信方式には、当社独自のIP-BUSを採用。各ユニット間で相互にデータのやりとりを行い、制御することにより、ユニット単位で様々な機能を持つことが可能になり、大規模なシステムへのシステムアップも簡単にできるようになりました。

IP-BUS = Interactive PIONEER BUS (インターラクティブ パイオニア バス)

全ての機能操作を車内から集中コントロール

各ユニットで持つ機能は、システムコントロールセンターチューナー/CDで集中コントロール。実際のボタン操作はリモートコントローラーで行うようにし、「RS-D7XII」本体のディスプレイに256×64ドットのOELを採用することによって、機能に応じた多彩な表示が可能になりました。

OEL = Organic Electro Luminescence (有機EL)

デジタル信号だからできる多彩な音質コントロール - DSP -

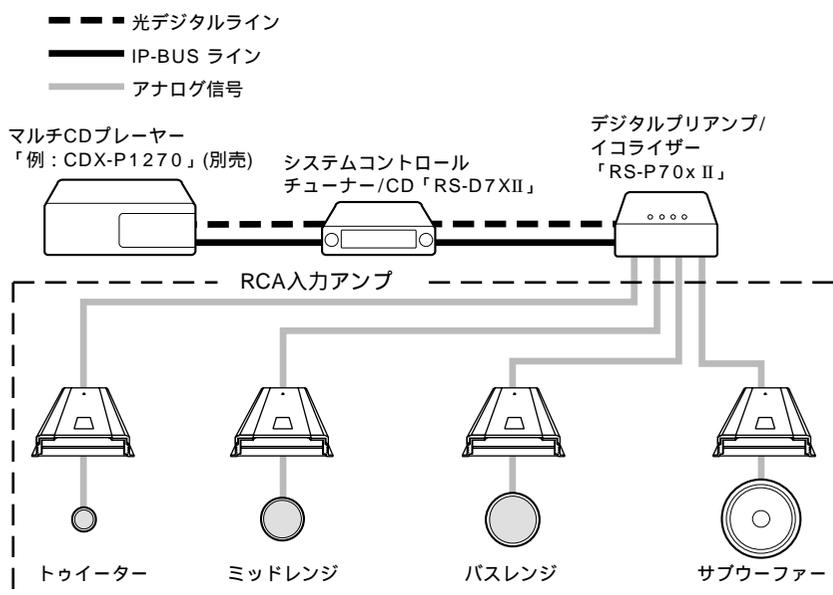
ODRシステムのオーディオユニット(デジタルイコライザーやデジタルアンプ)には、DSPによるデジタル信号処理を応用した数々の機能を搭載しており、きめ細かい微妙な音質コントロールを行うことができます。また、その機能は組み合わせるオーディオユニットによって、変化させることができます。

オーディオ信号の処理はデジタルで行われるため、信号処理の際の音質劣化は極めて少なく、高音質のまま、車独特の音響特性に応じた音づくりを実現します。

RCA入力のアナログアンプを組み合わせることも可能です

すでにRCA入力のアナログアンプをお持ちのときは、アナログアンプを使用してシステムを構成することも可能です。

システム構成例2：お手持ちのアナログアンプを使用する場合



ご使用になる前にお読みください

保証書は受け取りましたか？

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されている事をお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容を良くお読みのうえ、大切に保管してください。

本システムの取り扱いについて

車のバッテリーを取り外したときは

車のバッテリーを外すと、本機のメモリー（環境設定の内容、チューナーのプリセット、およびディスクタイトルなど）が全てリセットされます。再度セットしなおしてください。

バッテリーあがりを防止するため

車のエンジン停止中や5分以上のアイドリング中は、ODRシステムを使用しないでください。（システムの電源をOFFにしてください。）

車のバッテリーが消耗している場合は、ODRシステムを使用しないでください。

車のバッテリーあがりを防止するため、車全体での消費電流が大きくなる、次のような条件下ではODRシステムを使用しないでください。（システムの電源をOFFにしてください。）

例1：「RS-A9X」 + 「RS-A7X」を複数台使用 + 渋滞時 + 夜間走行 + リアウィンドデフォグ（曇り取り）スイッチをON

例2：「RS-A9X」 + 「RS-A7X」を複数台使用 + 渋滞時 + 夜間走行 + エアコンディショナーを強で使用

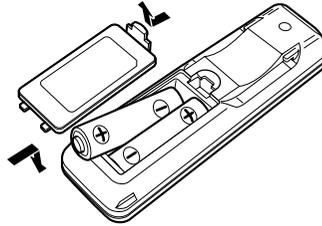
例3：「RS-A9X」 + 「RS-A7X」を複数台使用 + 渋滞時 + 夜間走行 + 消費電流の大きいアクセサリ類（例：フォグランブ）を使用

供給電圧表示について

本機は、バッテリーからの供給電圧を、ディスプレイに表示させることができます。バッテリーからの供給電圧をチェックすることで、バッテリー上がりの防止に役立てることができます。[19ページ参照]

リモートコントローラーの準備

裏ボタンを開けて、単4電池 (R03) 2本をセットします。



リモートコントローラーの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

⊘ リモートコントローラー取り扱い上の注意

リモートコントローラーのボタン操作および開閉操作は、必ず、リモートコントローラーを本体のリモートコントローラー受光部に向けて行ってください。

リモートコントローラーの位置によっては、正しく操作できないことがあります。

リモートコントローラーを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモートコントローラーの操作ができないことがあります。このようなときは、本体にリモートコントローラーを近づけて操作してください。

乾電池は充電しないでください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

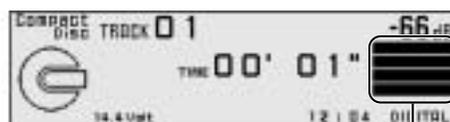
不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

メニュー表示のオープン/クローズ状態について

本システムはリモートコントローラーの状態により，使用できる機能およびディスプレイのメニュー表示が異なります．

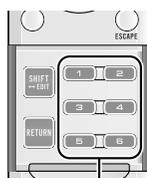
リモートコントローラーの状態		ディスプレイのメニュー表示
リモートコントローラー	ドア閉	クローズ状態
	ドア開	オープン状態

メニュー表示クローズ状態

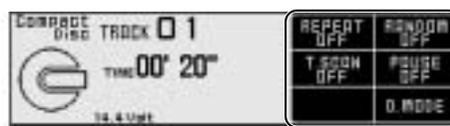


メニュー表示クローズ状態
現在のモード状態や，ON になっている機能が表示されます．

メニュー表示オープン状態



ファンクションボタン / 1 ~ 6 とディスプレイのメニュー表示の位置関係は対応しています．



メニュー表示オープン状態
ファンクションボタン / 1 ~ 6 で操作できる機能が表示されます．



操作の途中でカバーを閉じたときは

それまでの操作が解除されて，メニュー表示がクローズ状態に戻ります．

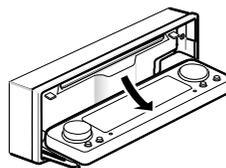
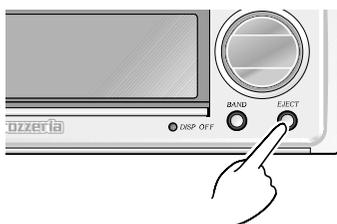
本機のフロントパネルについて

フロントパネルの使いかた

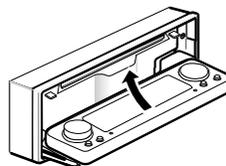
ディスプレイをより大きく、見やすくするために、本機のフロントパネルにはスライドダウン機構が採用されています。フロントパネルを開けると、ディスク挿入口が現れます。

フロントパネルの開閉

EJECTボタンを押すと、フロントパネルが開きます



EJECTボタンを押すと、フロントパネルが閉まります



開閉時のご注意

フロントパネルを開けた時、フロントパネルの上に物を置いたり、下に向けて強い力を加えないでください。故障の原因となります。

開閉させる際に、指や物をはさまないように注意してください。

フロントパネルを全閉にしたまま走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをすることがあります。



CDがセットされているときは

CDがセットされているときは、EJECTボタンを2秒以上押しごとに、CDをセットしたままで、フロントパネルの開閉ができます。CDを取り出すには、EJECTボタンを2秒以下押します。

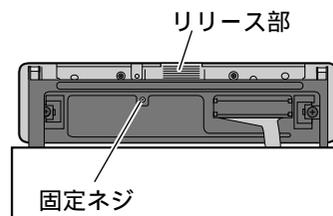
デタッチャブル フロントパネルの使いかた

本機のフロントパネル部には、盗難を抑制する方法の一つとして、デタッチャブル機構を採用しています。車から離れるときに、簡単にフロントパネルを取り外し、携帯することができます。

フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを着脱できるようにするときは、フロントパネルを固定しているネジを、あらかじめ取り外してください。固定ネジを取り外さないと、フロントパネルは着脱できません。

- 1 フロントパネルを固定しているネジを取り外します

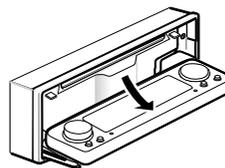
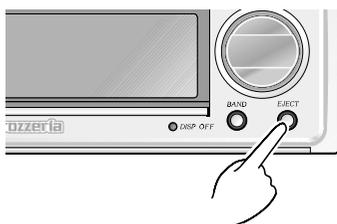


デタッチャブル フロントパネルを使用しないときは

フロントパネルを着脱する必要がない場合は、固定ネジは取り付けたままでご使用ください。

フロントパネルの取り外しかた

- 1 EJECTボタンを押して、フロントパネルを開けます



- 2 リリース部を持って、フロントパネルを手前に引き抜きます

数秒後、フロントパネルが自動的に閉じます。この時、指などを挟み込まないように注意してください。

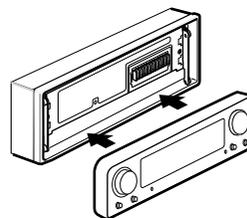


リリース部

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを本体に押しつけます

このときに、操作ボタンやディスプレイは押さないでください。



⊘ フロントパネルの取り扱いについて

フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。

取り外し、取り付けの際にディスプレイやボタンを強く持たないでください。

落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

高温になる場所や、直射日光の当たる場所に置かないでください。

分解しないでください。

ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけるしないでください。表面が侵されることがあります。

フロントパネルおよび本体の端子部を触らないでください。接触不良になる恐れがあります。汚れたときは、きれいな乾いた布でふいでください。

👉 フロントパネルが正しく取り付けられていないときは

各操作ボタンを押しても動作しない場合があります。このときはフロントパネルを軽く押しつけてください。

使用環境を設定する

ディスプレイの明るさの調節や時計の調節など、本機を使用する環境の設定を行います。また、本システムには、ここで設定しておかなければ使用できない機能があります。ご使用になるシステムに合わせて、環境設定を行ってください。

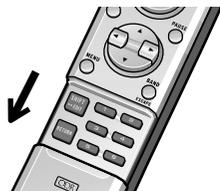
環境設定モードに切り換える

環境設定は全て環境設定モードで行います。最初に環境設定モードに切り換えてください。環境設定モードに切り換えるには、次の方法で行います。

1 システムの電源をOFFにします

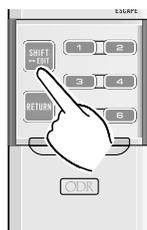
システムの電源がOFFになっていないと、環境設定モードに切り換えることはできません。[電源OFFについては、26、27ページをご覧ください。]

2 リモートコントローラーのカバーを開けます



3 SHIFTボタンを押して、環境設定モードに切り換えます

環境設定モード/初期画面に切り換わります。



環境設定モードでの操作

環境設定モードでは、次の設定を行います。

時計の設定 [12ページ]

ディスプレイの設定 [15ページ]

一般環境の設定 [17ページ]

メニューロックの設定 [21ページ]

環境設定モードの解除 (終了) [21ページ]

時計の設定をする

時計調節画面に切り換える

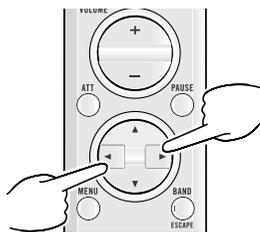
初期画面のときに、ファンクションボタン/1を押します

時計調節画面に切り換わり、時計の設定を行うことができます。



時計を合わせる

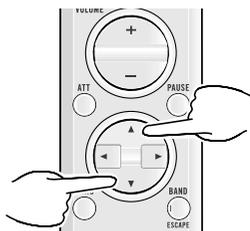
- 1 ◀/▶ボタンを押して、調節したい部分(時、分)にカーソルを合わせます



- 2 ▲/▼ボタンを押して、調節します

ボタンを押し続けると連続して送られます。

秒表示はありませんが、分を調節したときは、調節後ボタンから手を離すと0秒からスタートします。

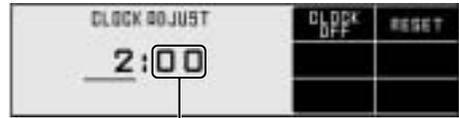
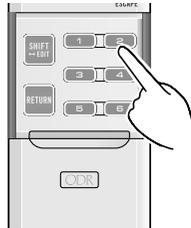


時報合わせをする

ファンクションボタン/2を押すと、分がリセットされます

0分0秒からスタートしますので、時報などで合わせてください。

00～29分のときは、分は切り捨てられます。30～59分のときは、1時間繰り上げられます。



分がリセットされて“00”になります。

時計表示のON/OFF

システムの電源がOFFになっているときでも、ディスプレイを時計表示にすることができます。

電源がOFFのときの時計表示



ファンクションボタン/1を押すごとに、電源OFFのときの時計表示のON/OFFが切り換わります



ON ←→ OFF

⊘ バッテリー上がりを防止するために

車のエンジン停止中は、時計表示の長時間のご使用はお控えください。



電源がONのときは

各ソースの動作画面になっているときは、常に画面上に時刻が表示されます。



初期画面に戻る

RETURNボタンを押します

初期画面に戻ります。



ディスプレイの設定をする

ディスプレイ設定画面に切り換える

初期画面のときに、ファンクションボタン/2を押します

ディスプレイ設定画面に切り換わり、ディスプレイの設定を行うことができます。

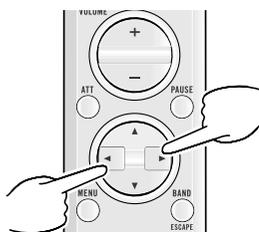


ファンクションボタンの機能表示

ディスプレイの明るさを調節する

ディスプレイの明るさをお好みに合わせて調節することができます。

◀/▶ボタンを押して調節します



“0”～“30”の範囲で調整できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。

ファンクションボタン/1を押すごとに、ディマーのON/OFFが切り換わります



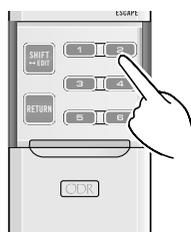
ON ← → OFF

背景のパターンを選ぶ

ディスプレイに表示される文字などの背景のパターンを選ぶことができます。

ファンクションボタン/2を押すごとに、壁紙が切り換わります

3つのパターンの中から選択してください。



3種類の中から選択できます。

ディスプレイの反転表示のON/OFF

各ソースを聞いているときに、約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は10秒間隔で行われます。

ファンクションボタン/3を押すごとに、反転表示のON/OFFが切り換わります



ON ← → OFF

一般環境の設定をする

一般環境設定画面に切り換える

初期画面のときに、ファンクションボタン/3を押します

一般環境設定画面に切り換わり、一般環境の設定を行うことができます。



ファンクションボタンの機能表示

AUX (外部入力) の設定

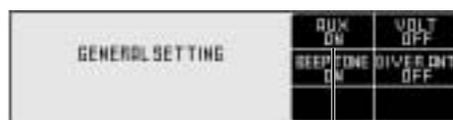
本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター（「CD-RB20」または「CD-RB10」）を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

AUXの設定をONにしないと、AUXソースには切り換わりません。

[ソース切り換えについては、26、27ページをご覧ください。]

ファンクションボタン/1を押すごとに、AUX設定のON/OFFが切り換わります



ON ↔ OFF



外部機器を接続していない場合は

AUX設定はOFFのままご使用ください。

IP-BUS入力端子の詳しい接続方法は

別冊の取付説明書をご覧になり、正しく接続してください。

外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

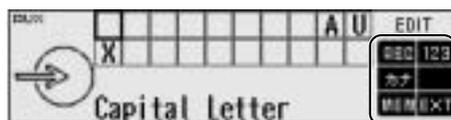
1 ソースをAUXに切り換えます

AUXの設定をONにしないと、AUXソースには切り換わりません。

[ソース切り換えについては、26、27ページをご覧ください。]

2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます

文字入力画面に切り換わり、外部機器の名称を入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

3 外部機器の名称を入力して、記憶させます

22ページを参照して、入力を行ってください。

4 記憶させた名称が、ディスプレイ上に表示されます



DAT と入力した場合

供給電圧表示の設定

本機はバッテリーからの供給電圧を常にチェックしており、現在供給されている電圧をディスプレイに表示することができます。バッテリーからの電圧をチェックすることで、バッテリー上がりの防止に役立ちます。

ファンクションボタン/2を押すごとに、供給電圧表示のON/OFFが切り換わります



クローズ状態での電圧表示



電圧が10 V 未満になったとき

現在供給されている電圧が10 V 未満になったときは、「--- Volt」と表示されます。このような表示になった場合は、バッテリーが充電されるまでの間、本システムの電源をOFFにしてください。

操作確認音をON/OFFする

ボタンを押したときに鳴る操作確認音（“ピッ”という音）をON/OFFすることができます。

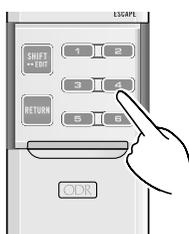
ファンクションボタン/3を押すごとに、操作確認音のON/OFFが切り換わります



FMダイバーシティシステムの設定

FMダイバーシティシステムを使用するときはONに、使用しないときはOFFに設定します。

ファンクションボタン/4を押すごとに、FMダイバーシティの設定のON/OFFが切り換わります



FMダイバーシティシステムとは

FM放送を2本のアンテナで受信するシステムです。メイン用アンテナの受信感度が悪いときは、自動的にサブ用アンテナに切り換えて受信します。

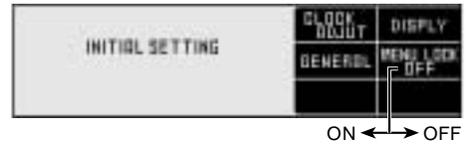
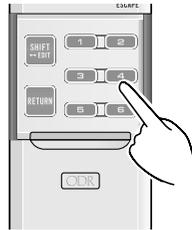
FMダイバーシティシステムを使用しないときは

必ず設定OFFで使用してください。設定ONで使用すると、感度が悪くなったり、雑音が増加する場合があります。

メニューロックの設定をする

メニューロックは、オーディオの設定をあやまって消去または再設定しないように、オーディオメニューの詳細設定をロックする機能です。

初期画面のときにファンクションボタン/4を押すごとに、メニューロックのON/OFFが切り換わります

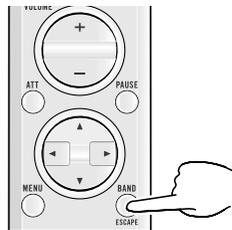


メニューロックがONの状態のときは、オーディオメニュー時でのリモートコントローラーの開閉操作は受け付けなくなります。

環境設定モードを解除 (終了) する

BANDボタンを押して、環境設定モードを解除します

解除すると、環境設定モードにする前の状態に戻ります。



リモートコントローラーのカバーを閉じて、環境設定モードが解除されます。

各ソースに切り換えても、環境設定モードが解除されます。[26, 27ページ参照]

編集モードで文字を入力する

外部機器の名称入力 [18ページ]，ディスクタイトル入力 [40，62，77ページ]，およびオーディオ調整メニューの設定者名の入力では，編集モードに切り換えて文字を入力し，その内容を記憶させます．ここでは，編集モードでの文字の入力のしかたを説明しています．

ディスクタイトルは20文字まで入力できます．（組み合わせたマルチCDやDVDプレーヤーによっては，最大10文字までしか入力できないこともあります．）

外部機器の名称およびオーディオ設定者名は20文字まで入力できます．

編集モードへの切り換えかたについては，それぞれのページを参照してください．



事故防止のために

文字の入力操作は画面を長く見る必要があります．事故防止のため運転中は文字の入力操作を行わないでください．

文字の入力

- 1 ファンクションボタン / 1，2，3 を押して，文字の種類を選びます
押し続けると連続して送られます．

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります)	アルファベットの小文字 (a～z) アルファベットの大文字 (A～Z)，数字 (0～9)，記号 (!，#，& など)
2ボタン	数字 (0～9) 記号 (!，#，& など)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります)	カタカナ (ア～ン)，音引き (ー) 拗促音 (ア，ヨ，ツ など)，濁点，半濁点

2 文字を入力します

入力する文字を選びます

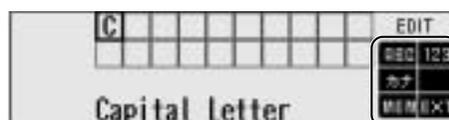
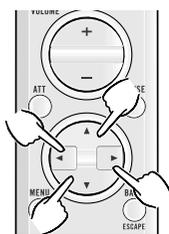
▲：次の文字を選ぶとき

▼：前の文字を選ぶとき

入力する位置を選びます

▶：右に移動させるとき

◀：左に移動させるとき



ファンクションボタンの機能表示

画面の大きさのため、入力は2段に分けて行います。

空白を作りたいときは、空白にしたい箇所の文字ボックスをとばしてください。

3 1, 2の操作を繰り返し行って、全ての文字を入力します

4 ファンクションボタン/5を押して、記憶させます



編集モードを解除する

ファンクションボタン/6を押します



共通の操作

- 共通の操作 -

ボリューム調節やソース切り換えなど、共通の操作を行います。

内 容

電源を入れる・電源を切る	26
ソース切り換え	26
音量調節	28
音量調節 (ボリューム)	28
瞬時に音量を小さくする (アッテネーター)	29
便利な機能	30
画面表示をOFFにする	30
ミュート機能	30

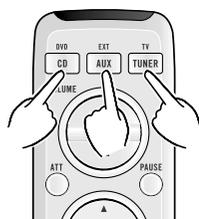
電源を入れる・電源を切る

ソース切り換え

次の操作で組み合わせたソースを切り換えることができます。

リモートコントローラーでの操作

それぞれのボタンを押すと、それぞれのソースに切り換わります



CDボタン

内蔵CD マルチCD マルチDVD 電源OFF 内蔵CDに戻る

AUXボタン

External 1 (エクスターナルユニット) (別売)

External 2 (エクスターナルユニット) (別売) AUX (外部機器) 電源OFF

External 1 (エクスターナルユニット) に戻る

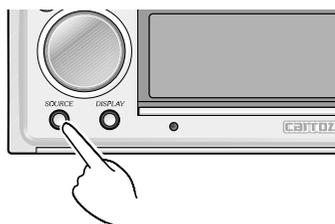
TUNERボタン

テレビ ラジオ (FM/AM) 電源OFF テレビに戻る

電源OFFにするときは、それぞれのボタンを押して、電源OFFを選んでください。

本体での操作

SOURCEボタンを押すごとに、次の順でソースが切り換わります



内蔵CD マルチCD マルチDVD テレビ ラジオ (FM/AM)
External 1 (エクスターナルユニット) (別売)
External 2 (エクスターナルユニット) (別売) AUX (外部機器)
内蔵CDに戻る

電源OFFにするときは、SOURCEボタンを1秒以上押してください。



AUX (外部入力) について

AUX (外部機器) の設定 [17ページ] をONにしないと、AUXには切り換わりません。

こんなときそのソースには切り換わりません

組み合わせていないソース。

本機にCDがセットされていないとき。

マルチCDにマガジンがセットされていないとき。

DVDプレーヤーにディスク (マガジン) がセットされていないとき。

AUX (外部入力) の設定をOFFにしているとき。
[17ページ参照]

電源OFFからソースに切り換えたときは

ODRシステムは、電源がONになると、接続されている各製品の間で接続状態の確認を行います。このため電源をONにしてから音が出されるまでに、数秒間かかることがあります。(車のイグニッションスイッチをOFFからONにしたときも同様です。)



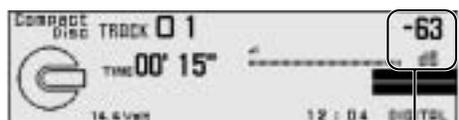
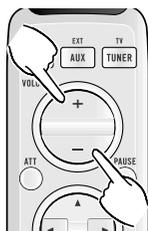
External (エクスターナルユニット) について

External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2が自動的に設定されます。

音量調節

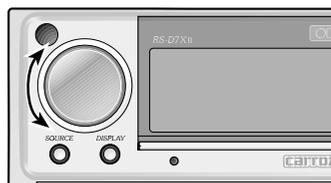
音量調節 (ボリューム)

リモートコントローラーでの操作：VOLUMEを押します
押し続けると連続して調節できます。



---dB ~ 00dB

本体での操作：VOLUMEを回します



音量は控えめに

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。

バッテリーあがりに関するご注意

車のエンジン停止中やアイドリング中は、大音量で長時間使用しないでください。

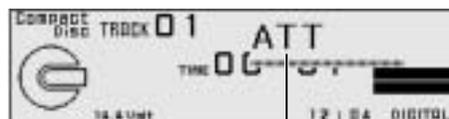
瞬時に音量を小さくする (アッテネーター)

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

リモートコントローラーのATTボタンを押します

ボタンを押すごとにON/OFFします。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。



ATT が表示されます。

便利な機能

画面表示をOFFにする

画面表示をOFFにすることでノイズを抑え、音質への影響を防ぐことができます。

本体のBANDボタンを2秒以上押します

ボタンを押すごとにON/OFFします。

画面表示がOFFのときは、本体のDISPLAY OFFインジケータが点灯します。

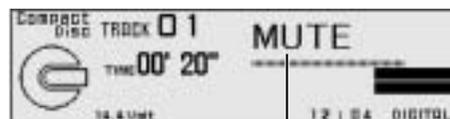


画面表示がOFFのときに、何かボタンを押すと、画面表示が約5秒間点灯し、再び消えます。

ミュート機能

ミュート機能のある製品 (パイオニア製HDDナビゲーションサーバー「AVIC-H9」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。ミュート機能が働いているときは、画面上に“MUTE”が表示され、音声スピーカーから出力されなくなります。

ミュート機能が解除されると、自動的にもとの画面表示と音量に戻ります。



MUTE が表示されます。

内蔵CDの操作

内蔵CDの操作

内蔵CDのいろいろな機能进行操作します。

内 容

CDの正しい使いかた	32
使用できるCDについて	32
取り扱い上のご注意	32
保管上のご注意	32
お手入れについて	33
CD再生の環境について	33
「CD TEXT」について	33
内蔵CDを操作する	34
内蔵CD再生のON/OFF	34
選曲する(トラックサーチ)、	
早送り/早戻しをする	37
リピート再生	37
ランダム再生	38
スキャン再生	38
ポーズ	39
ディスプレイ表示を切り換える	39
CDのタイトルを表示させる	40
「CD TEXT」のタイトルや歌手名を 表示させる	41

CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

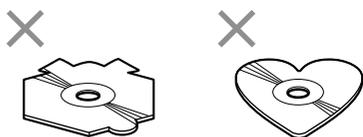
下記マークの付いているコンパクトディスク (光学式デジタル オーディオ ディスク) をご使用ください。



本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。

ひび、キズ、そのあるCDは使用しないでください。

特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因となります。



音楽用CDレコーダーまたはパソコンで録音したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。(詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。)

直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。

本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。

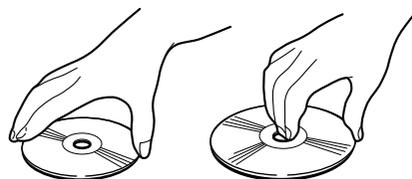
ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応しておりません。

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

CDは、下図のように、信号記録面 (虹色に光っている面) をさわらないように持つてください。

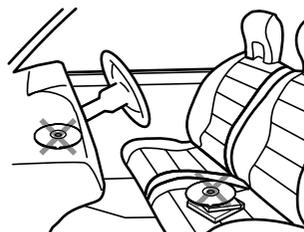


CDにキズをつけないでください。

CDにシールなどを貼り付けしないでください。

保管上のご注意

直射日光の当たるところや、高温になるところには、CDを保管しないでください。



CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDについた露は柔らかい布でふいてください。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、ディスク名/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



「CD TEXT」には、タイトルを入力することはできません。そのため、「CD TEXT」再生中にタイトル入力 [40, 62ページ参照] の操作を行っても、タイトル入力モードには切り換わりません。

本機は、カナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字の表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。



CD再生に関して

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

内蔵CDを操作する

内蔵CD再生のON/OFF

ディスクのセット

⊘ ディスクをセットする前に

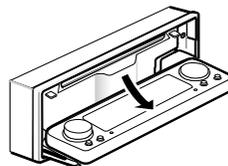
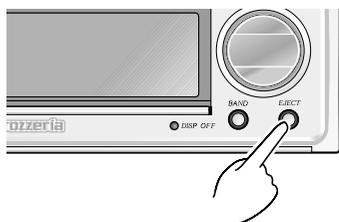
ディスクがセットされていないことを確認してから、ディスクをセットしてください。

ディスクを2枚重ねて差し込まないでください。故障の原因になります。

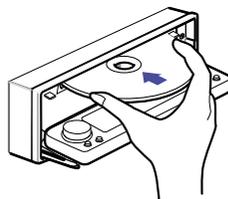
CDシングル (8cm CD) もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。

CD挿入口にはCD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

1 EJECTボタンを押して、フロントパネルを開けます



2 タイトル面を上にして、CD挿入口に差し込みます



タイトル面を下にしたときは

間違えてタイトル面を下にして差し込んだ場合、ディスプレイがエラー表示になります。この場合は、EJECTボタンを押してCDを取り出し、CD挿入口に正しく入れ直してください。

3 自動的にフロントパネルが閉まり，CDの再生が始まります

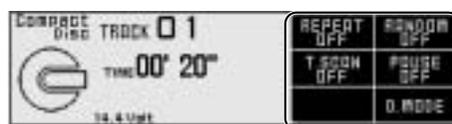
タイトル画面の後，内蔵CD動作画面に切り換わります．リモートコントローラーのカバーの開閉により，メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります．

内蔵 CD 動作画面 (クローズ状態)



モード表示

内蔵 CD 動作画面 (オープン状態)



ファンクションボタンの機能表示



ディスクがすでにセットされているときは

CDボタンを押して，CD再生をON/OFFすることができます (ソース切り換え)．[26，27ページ参照]

異常なディスクをセットしたときは

ディスクを差し込んでも途中で止まってしまうときや，セットされても再生が始まらないときは，ディスクの異常が考えられます．このような場合は，ディスクの異常を確認してください．

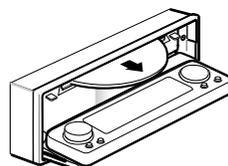
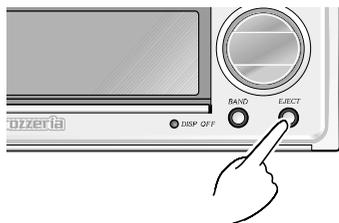
エラー表示について

CDプレーヤーが正常に動作できないときは，ディスプレイがエラー表示になります．この場合は，90ページの“CDプレーヤーのエラー表示”を参照して，その内容を確認してください．

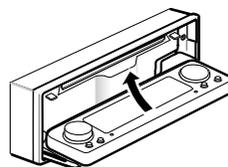


ディスクを取り出す (イジェクト)

- 1 EJECTボタンを押して、ディスクを取り出します
フロントパネルが自動的に開き、ディスクがイジェクトされます。

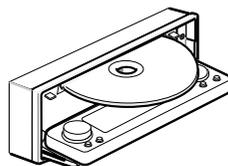


- 2 ディスクを取り出します
- 3 EJECTボタンを押して、フロントパネルを閉めます



イジェクト後、ディスクはすぐに保管しましょう

ディスクを図の状態のまま長時間放置しないでください。ソリの原因となります。また8 cm CDはこの状態のまま走行しないでください。走行中の振動により、ディスクが落下することがあります。



選曲する (トラックサーチ), 早送り/早戻しをする

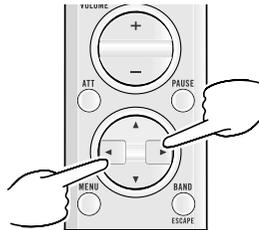
選曲 : ◀/▶ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ボタンを押して, 操作します

▶ : 次の曲を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前の曲を選ぶ (または早戻しする) とき



トラック番号

再生経過時間

リピート再生, スキャン再生 (38ページ) 中にトラックサーチ, および早送り/早戻しをすると, リピート再生・スキャン再生は解除されます。

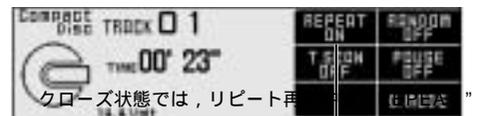
「RS-D7XII」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます。

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

ファンクションボタン/1を押すごとに, ON/OFFが切り換わります

解除するときは, もう一度ボタンを押します。



クローズ状態では, リピート再生が ON/OFF が表示されます。

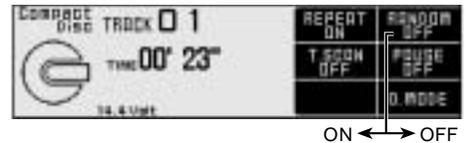
ON ←→ OFF

ランダム再生

選局をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。



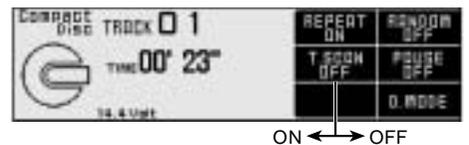
クローズ状態では、ランダム再生中は“RANDOM”が表示されます。

スキャン再生

曲の初めの部分だけを約10秒間ずつ次々と聞くことができます。

- 1 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます

曲の始めから約10秒間を次々に再生します。



クローズ状態では、スキャン再生中は“T.SCAN”が表示されます。

- 2 聞きたい曲が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲を継続して再生します。



スキャン再生は自動的に解除されます

スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

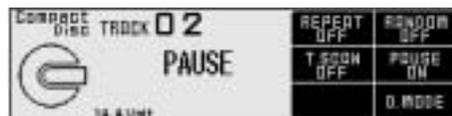
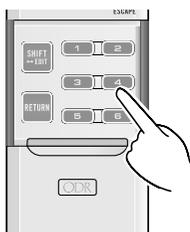
ポーズ

CDの再生を一時停止することができます。

リモートコントローラーオープン状態での操作

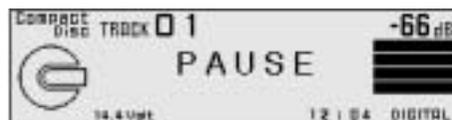
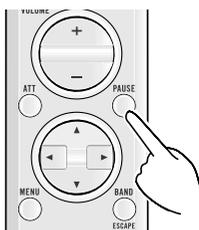
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります



ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



CDのタイトルを表示させる

本機にセットされているCDに、タイトルを入力し、記憶させることができます。また、タイトル入力を行ったCDを再生すると、ディスプレイにそのタイトルが表示されます。

タイトルは20文字まで入力できます。(組み合わせたマルチCD、DVDプレーヤーによっては、最大10文字までしか入力できない場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。)

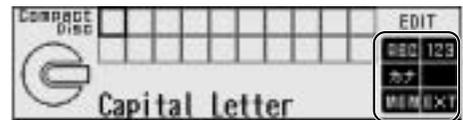
内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを入力する (編集モードに切り換える)

タイトルの入力、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



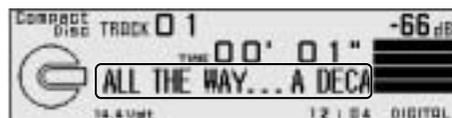
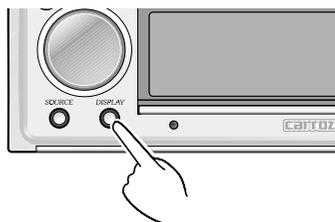
記憶させたタイトルが表示されます。

「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

本機に「CD TEXT」をセットしたとき、トラックタイトルや歌手名などを表示させることができます。一度に20文字まで表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

表示を切り換える

本体のDISPLAYボタンを押すごとに、以下のように切り換わります

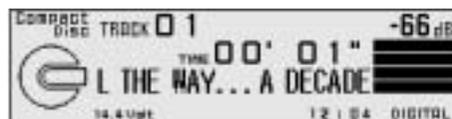
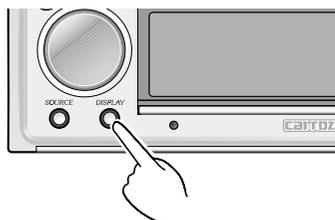


「CD TEXT」の文字情報が表示されます。

ディスクタイトル (ディスク名) ディスクアーティストネーム (歌手名)
トラックタイトル (曲名) トラックアーティストネーム (歌手名)
ディスクタイトルに戻る

隠れているタイトルを表示する

本体のDISPLAYボタンを2秒以上押します



隠れている文字が順番に表示されます。

チューナーの操作

本機に内蔵のチューナーの操作を行います。

内 容

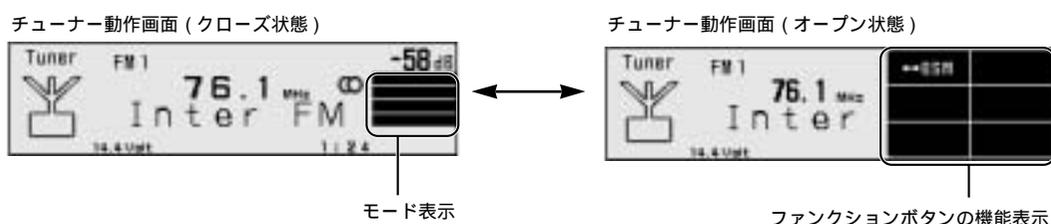
チューナーを操作する	44
チューナーのON/OFF	44
バンドを選ぶ	44
放送局を選局する	45
放送局を記憶させる	46
記憶させた放送局を呼び出す (プリセットチューニング)	48
放送局名を変更する	50

チューナーを操作する

チューナーのON/OFF

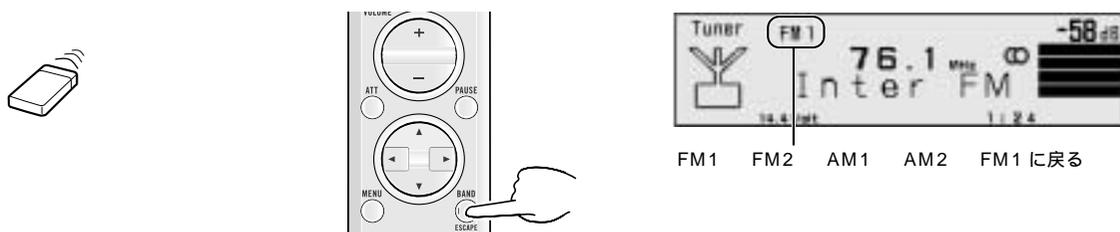
TUNERボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをチューナーに切り換えます
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、チューナー動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



バンドを選ぶ

BANDボタンを押すごとに、次の順で切り換わります



「RS-D7XII」本体のBANDボタンでも、同様の操作をすることができます。



ステレオ放送の受信について

ステレオ放送を受信したときは、ディスプレイにステレオ表示“ \odot ”が点灯します。

各バンドについて

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのままお使いになります。

放送局を選局する

放送局を選局するには、次の2つの方法があります。

自動選局：◀/▶ボタンを0.5秒以上押す

電波の強さが、ある一定レベル以上の放送局を自動的に選局します。

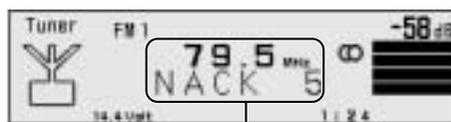
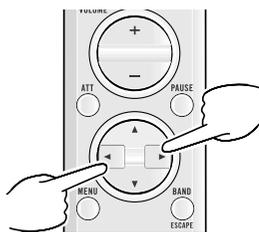
手動選局：◀/▶ボタンを0.5秒未満押す

手動で周波数を合わせて選局します。電波が弱く、自動選局では飛ばしてしまう放送局を受信したいときにご使用ください。

◀/▶ボタンを押して、選局します

▶：高い周波数の放送局を選局するとき

◀：低い周波数の放送局を選局するとき



周波数 / 放送局名表示

「RS-D7XII」本体の◀/▶ボタンでも、同様の操作をすることができます。

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局を飛ばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

本機はあらかじめ放送局名を記憶しています。ディスプレイに表示されている放送局名と受信している放送局名が異なるときは、受信している放送局名に変更することができます。[50ページ参照]

放送局を記憶させる

FM, AMそれぞれ12局ずつ (バンド1, 2で各6局), 放送局をファンクションボタン/1~6に記憶させておくことができます。

放送局を記憶させるには, 次の2つの方法があります。

受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

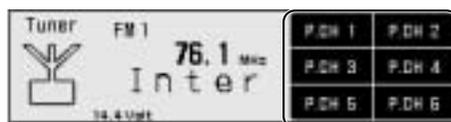
ファンクションボタン/1~6に, お好みの放送局を1局ずつ手動で記憶させます。

自動的に6局を記憶させる (BSM: ベストステーションズメモリー)

受信状態の良い放送局をさがして, 自動的にファンクションボタン/1~6に記憶させます。

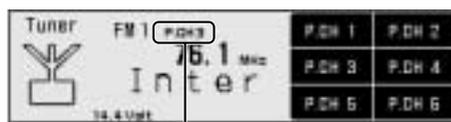
受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

- 1 バンドを選びます
- 2 記憶させたい放送局を選局します
◀/▶ボタンを押して, 記憶させたい放送局を受信してください。
- 3 SHIFTボタンを押して, プリセット番号表示にします



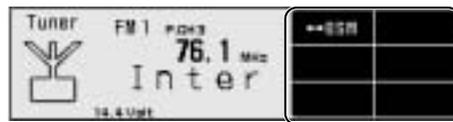
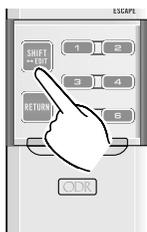
プリセット番号表示

- 4 ファンクションボタン/1~6の1つを2秒以上押し続け, 記憶させます
放送局がすでに記憶されている場合は, 前の記憶が消去されて, 新しい放送局が記憶されます。



記憶させたプリセット番号が表示されます。

- 5 もう一度，SHIFTボタンを押して，プリセット番号表示を解除します
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示

自動的に6局を記憶させる (BSM：ベストステーションズメモリー)

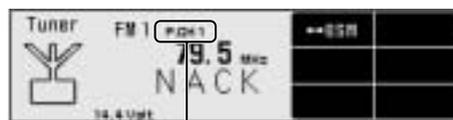
- 1 バンドを選びます
- 2 ファンクションボタン/1を2秒以上押し続け，BSMを始めます
電波の強い放送局を自動的に受信して，ファンクションボタン/1～6に記憶します。
BSM動作中にもう一度押しすと，解除されます。



記憶終了まで点滅します。

このとき，リモートコントローラーのカバーを閉じても，BSMは継続されます。

- 3 記憶が終わると，点滅が止まり，ファンクションボタン/1に記憶した放送局を受信します



受信中の記憶番号



BSM機能について

FM/AMのときは，ファンクションボタン/1～6に電波の強い順に記憶します。

強い電波の放送局が6局以上ないときは，前の記憶が残ることがあります。

強い電波の放送局が少ない地域では，BSMが終了するまでに30秒近くかかることがあります。

記憶させた放送局を呼び出すには，次ページのプリセットチューニングを参照してください。

BSM機能の上手な使いかた

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば，バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など，どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに，バンド2に切り換えてBSMを使うと，バンド1に記憶させた放送局はそのままお使いになります。

記憶させた放送局を呼び出す (プリセットチューニング)

記憶させた放送局を呼び出すには、次の2つの方法があります。

順送り/逆送り

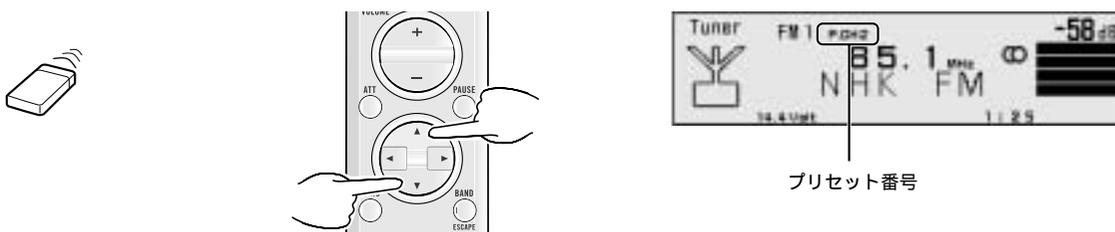
プリセット番号の順送り/逆送りで、記憶させた放送局を呼び出します。

プリセット番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたい放送局が記憶されているプリセット番号を直接呼び出します。

順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、プリセット番号が順送り/逆送りされます

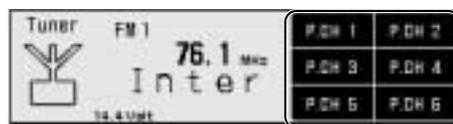
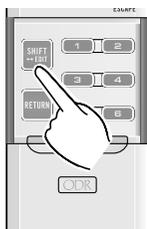


「RS-D7XII」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

プリセット番号を直接指定する

- 1 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします

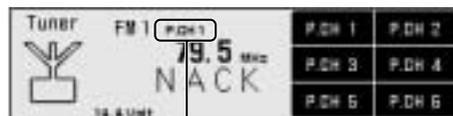
ボタンを押すごとに、ファンクションボタンの機能表示とプリセット番号表示が切り換わります。



プリセット番号表示

- 2 ファンクションボタン/1～6で、プリセット番号を選びます

聞きたい放送局が記憶されているプリセット番号を呼び出してください。



呼び出したプリセット番号が表示されます。

放送局名を変更する

ディスプレイに表示されている放送局名が、受信している放送局名と異なるときは、放送局名を変更することができます。

放送局名表示について

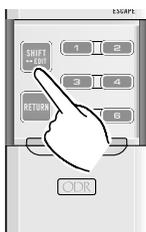
同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は違うことがあります。

(例：FM 80.0MHzを使用している放送局は“TOKYO FM”、“FM 青森”、“FM 福岡”など複数あります。)

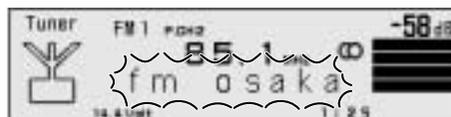
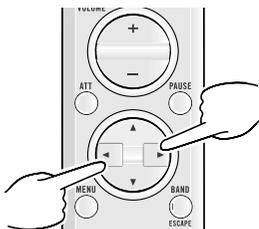
本機には、あらかじめ放送局名が記憶されています。ディスプレイに表示されている放送局名が受信している放送局名と異なるような場合は、放送局名を変更して表示することができます。

(例：福岡でFM 80.0MHzに周波数を合わせた場合、“FM 福岡”を受信しますが、本機の初期設定のままお使いになると、表示は“TOKYO FM”となります。このようなときは以下の手順で放送局名を変更することができます。)

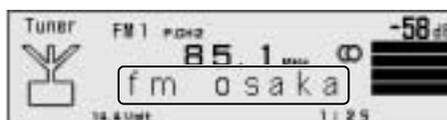
- 1 BANDボタンを押して、放送局名を変更するバンドを選びます
- 2 ◀/▶ボタンを押して、放送局名を変更したい放送局を選局します
- 3 SHIFTボタンを2秒以上押して、放送局名設定モードにします



- 4 ◀/▶ボタンを押して、放送局名を選びます

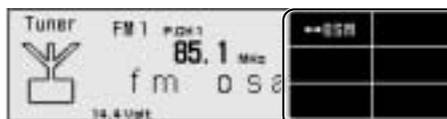


5 ▲ボタンを押して、決定します



6 RETURNボタンを押します

ファンクションボタンの機能表示画面に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“NO DATA”が表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、空白を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。

パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数にあわせると、放送局名を“FM-TVsound”に変更して表示することができます。

マルチCDの操作

マルチCDを組み合わせたときに

本機に、別売のマルチCDを組み合わせたときの操作を行います。

内 容

マルチCDを操作する	54
マルチCD再生のON/OFF	54
ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)	55
選曲する (トラックサーチ)、 早送り/早戻しをする	57
再生モードを選ぶ	58
ランダム再生	59
スキャン再生	60
ポーズ	61
ディスプレイ表示を切り換える	61
ディスクタイトル入力	62
「CD TEXT」のタイトルや歌手名を 表示させる	63

マルチCDを操作する

マルチCD (「CDX-P1270 (別売)」など) を接続したときは、本機でマルチCDをコントロールすることができます。

マルチCD再生のON/OFF

- 1 マルチCDにマガジンがセットされていることを確認します
[マルチCDプレーヤーの取扱説明書参照]
- 2 CDボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをマルチCDに切り換えます
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、マルチCD動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。

マルチCD動作画面 (クローズ状態)



モード表示

マルチCD動作画面 (オープン状態)



ファンクションボタンの機能表示



マルチCDが準備動作を行っているときは

マルチCDが準備動作 (ディスクの有無の確認やディスク情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると、“READY”が表示されます。

マルチCD再生中にマガジンを取り出したときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“NO MAGAZINE”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、CD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。(再びマガジンをセットすると、CD再生を始めます。)

光デジタルラインでマルチCDを接続しているときは

本機とマルチCDを、光デジタルラインで接続しているときは、画面上に“DIGITAL”が表示されます。

「RS-M1x (販売終了)」を接続しているときは

本機に、2台以上の「RS-M1x」は接続できません。(「RS-M1x」の取扱説明書に2台以上の接続方法が記載されていますが、本機に接続できるのは1台だけです。)

同様に、「RS-M1x」と他のマルチCD (「CDX-P1270」など) を同時に接続することもできません。

ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)

ディスクナンバーサーチには、次の2つの方法があります。

順送り/逆送り

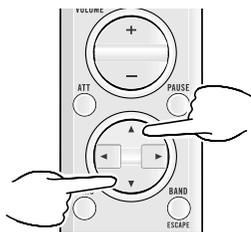
ディスク番号の順送り/逆送りで、ディスクを選びます。

ディスク番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたいディスクを直接呼び出します。

順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、ディスクが順送り/逆送りされます



「RS-D7XII」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

ディスク番号を直接指定する

- 1 SHIFTボタンを押して、ディスク番号表示にします



ディスク番号表示

- 2 SHIFTボタンを押して、ディスク番号を切り換えます
SHIFTボタンを押すごとに1～6枚目 → 7～12枚目 → ファンクションボタンの機能表示へ切り換わります
- 3 ファンクションボタン/1～6で、ディスクを選びます



呼び出したディスク番号が表示されます。

- 4 RETURNボタンを押して、ディスク番号表示を解除します
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示



ディスクを入れていないディスク番号は選択
できません

選曲する (トラックサーチ), 早送り/早戻しをする

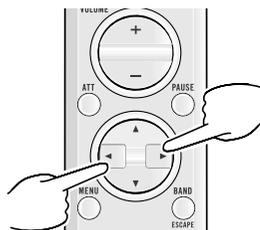
選曲 : ◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ ボタンを押して, 操作します

▶ : 次の曲を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前の曲を選ぶ (または早戻しする) とき



トラック番号

再生経過時間

「RS-D7XII」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます。

再生モードを選ぶ

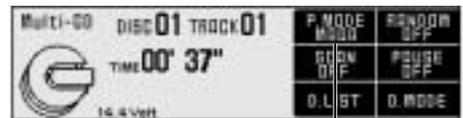
今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は次の中から選ぶことができます。

再生範囲	再生内容
マルチCDリピート (MAGA)	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)
ディスクリピート (DISC)	再生中のCDを繰り返し再生します。
トラックリピート (REPEAT)	再生中の曲を繰り返し再生します。

ファンクションボタン/1を押すごとに、次の順でモードが切り換わります



クローズ状態では、それぞれのモードが表示されます。

マルチCDリピート (MAGA) ディスクリピート (DISC)
 トラックリピート (REPEAT) マルチCDリピート (MAGA) に戻る

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

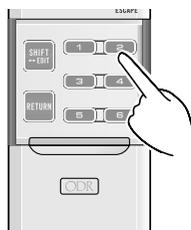
1 再生範囲を切り換えます

[58ページ参照]

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。



クローズ状態では、それぞれのモードが表示されます。

スキャン再生

今聞いているCDの、曲の初めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の初めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲を切り換えます

[58ページ参照]

行いたいスキャン再生に合わせて、再生範囲を選択してください。

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートまたはトラックリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

聞きたいCDをさがすとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマルチCDリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

2 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます

曲の始めから約10秒間が次々に再生されます。



クローズ状態では、それぞれのモードが表示されます。

3 聞きたい曲 (ディスク) が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲 (ディスク) を継続して再生します。

スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は自動的に解除されます。

トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

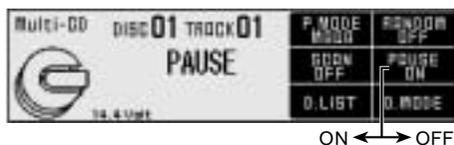
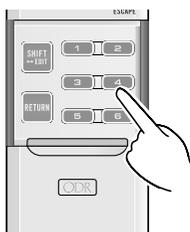
ポーズ

リモートコントローラーオープン状態での操作

CDの再生を一時停止することができます。

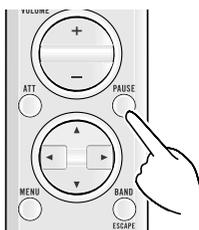
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります



ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



ディスクタイトル入力

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。CDにタイトルをつけると、ディスクリスト [64ページ参照] で聞きたいCDを探すこともできます。「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P1270 (別売)」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルと同様にディスクリストをすることができます。

タイトル20文字まで記憶できます。(マルチCDによっては最大10文字までしか入力できない場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。)

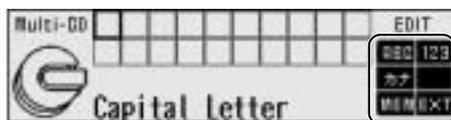
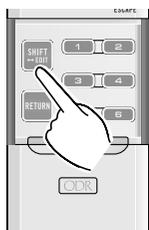
タイトルは、本体のタイトル入力機能と合わせて、最大100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを入力する (編集モードに切り換える)

タイトルの入力は、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



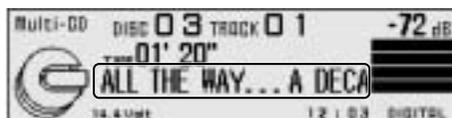
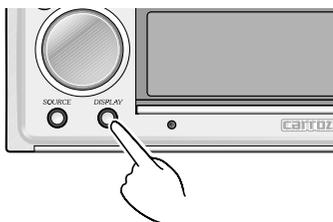
記憶させたタイトルが表示されます。

「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P1270（別売）」など）に「CD TEXT」をセットしたとき、トラックタイトルや歌手名などを表示させることができます。一度に20文字まで表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

表示を切り換える

本体のDISPLAYボタンを押すごとに、以下のように切り換わります

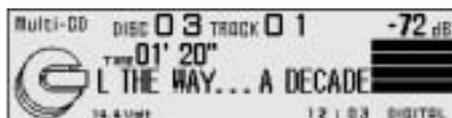
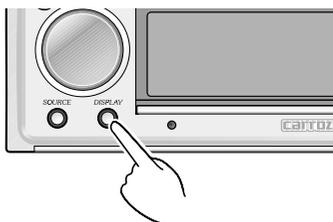


「CD TEXT」の文字情報が表示されます。

ディスクタイトル (ディスク名) ディスクアーティストネーム (歌手名)
トラックタイトル (曲名) トラックアーティストネーム (歌手名)
ディスクタイトルに戻る

隠れているタイトルを表示する

本体のDISPLAYボタンを2秒以上押します



隠れている文字が順番に表示されます。

ディスクタイトルをリスト表示する

CDのタイトル (ディスクリスト) を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

ファンクションボタン/5を押して、ディスクリストを表示させます

ディスクリスト画面に切り換わり、ディスクタイトルが表示されます。

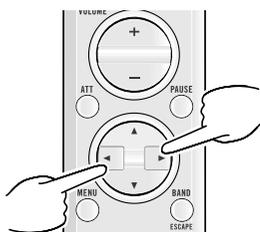
タイトルを入力していないCDは、何も表示しません。



現在演奏中のディスク番号が点滅します。

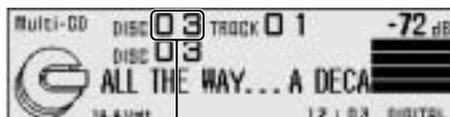
ディスクリスト表示から再生するディスクを選ぶ

- 1 ◀/▶ ボタンを押して、再生したいディスクを選びます



選択しているディスク番号が点滅します。

- 2 ▲ボタンを押して、決定します



ディスクが切り替わり、再生が始まります。

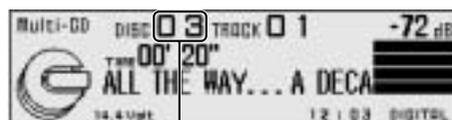
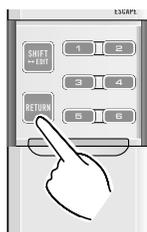


ディスクリスト表示のときは

SHIFTボタン、ファンクションボタンは使用できません。

マルチCD動作画面に戻る

RETURNボタンを押すと、マルチCD動作画面に戻ります



再生中のディスク番号が表示されます。

DVDプレーヤーの操作

DVDプレーヤーを組み合わせたときに

本機に、別売のDVDプレーヤーを組み合わせたときの操作を行います。

内 容

DVDプレーヤーを ご使用になる前に	68
DVDプレーヤーを接続した場合	68
DVDプレーヤーの設定	68
ディスクメニュー画面について	68
DVDプレーヤーを操作する	69
DVD再生のON/OFF	69
ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)	70
チャプター (トラック) を選ぶ , 早送り/早戻しをする	72
再生モードを選ぶ	73
ランダム再生	74
スキャン再生	75
ポーズ	76
ディスプレイ表示を切り換える	76
ディスクタイトル入力について	77

DVDプレーヤーをご使用になる前に

DVDプレーヤーを接続した場合

本機に、光ケーブルとIP-BUSケーブルでDVDプレーヤー（例：「XDV-P9II（別売）」）を接続し、IP-BUSケーブルでマルチCD（例：「CDX-P1270（別売）」）を接続した場合、マルチCD再生中に、DVDプレーヤーの本体またはDVDプレーヤーのリモコンでDVDの再生をONにすると、音声はDVDに切り換わります。

DVDプレーヤーの設定

本機に、別売のパイオニア製DVDプレーヤーを組み合わせたときは、DVDプレーヤーの出力設定を変更する必要があります。下の表を参考にして、DVDプレーヤーを正しく設定してください。

	出力設定とダウンサンプル周波数	
マルチDVD（例：XDV-P9II） を接続したとき	出力設定	: LPCM
	ダウンサンプル周波数	: 48 kHz
1枚型DVD（例：SDV-P7） を接続したとき	出力設定	: LPCM
	ダウンサンプル周波数	: 48 kHz または 96 kHz

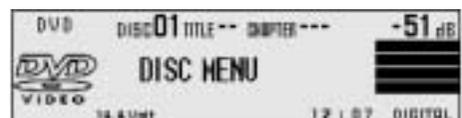
DVDプレーヤーの出力設定を正しく行わないと、DVDの音声を聞くことはできません。

96 kHz で収録されているディスクでは、DVDプレーヤーのダウンサンプル周波数を「96 kHz」に設定すると、デジタル出力から音声が出なくなることがあります。この場合は、ダウンサンプル周波数を「48 kHz」に切り換えてご使用ください。[DVDプレーヤーの取扱説明書参照]

ディスクメニュー画面について

DVDを再生しているときに、ディスクメニュー画面になっている場合は、本機のリモートコントローラーでは操作できません。DVDプレーヤー本体か、DVDプレーヤーのリモコンで操作してください。

ディスクメニュー画面



DVDプレーヤーを操作する

DVDプレーヤー（例：「XDV-P9II（別売）」など）を接続したときは、本機でDVDプレーヤーをコントロールすることができます。

DVD再生のON/OFF

- 1 DVDプレーヤーにマガジン（ディスク）がセットされていることを確認します

[DVDプレーヤーの取扱説明書参照]

- 2 CDボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをDVDに切り換えます

[26, 27ページ参照]

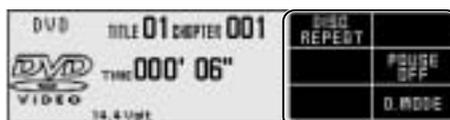
タイトル画面の後、DVD動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。

DVD 動作画面（クローズ状態）



モード表示

DVD 動作画面（オープン状態）



ファンクションボタンの機能表示



DVDプレーヤーが準備動作を行っているときは

DVDプレーヤーが準備動作（ディスクの有無の確認やディスク情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをDVDに切り換えると、“READY”が表示されます。

マルチDVD再生中にドアを開けたときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“DOOR OPEN”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、DVD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。（再びドアを開けると、DVD再生を始めます。）

マルチDVD再生中にマガジンを取り出したときは

システムの電源はOFFにならずに、ディスプレイに“NO MAGAZINE”が表示されます。バッテリーあがりを防ぐため、DVD再生をしないときはシステムの電源をOFFにしてください。（再びマガジンをセットすると、DVD再生を始めます。）

光デジタルラインでDVDプレーヤーを接続しているときは

本機とDVDプレーヤーを、光デジタルラインで接続しているときは、画面上に“DIGITAL”が表示されます。

ディスクを選ぶ (ディスクナンバーサーチ)

本機にマルチDVDを接続したときは、ディスクナンバーサーチで、ディスクを選ぶことができます。ディスクナンバーサーチには、次の2つの方法があります。

順送り/逆送り

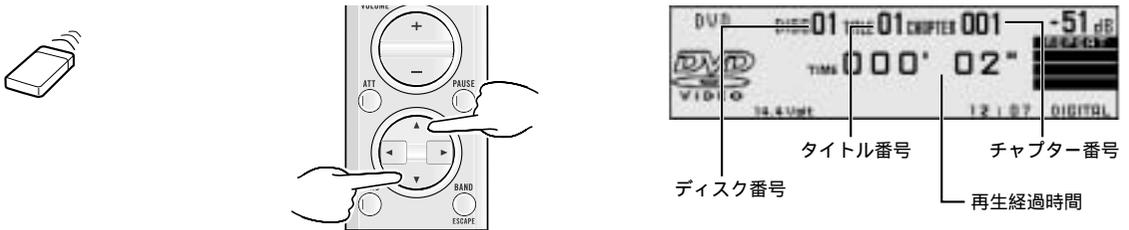
ディスク番号の順送り/逆送りで、ディスクを選びます。

ディスク番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。再生したいディスクを直接呼び出します。

順送り/逆送りで選ぶ

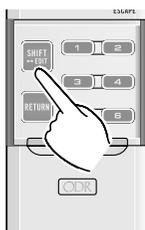
▲/▼ボタンを押すと、ディスクが順送り/逆送りされます



「RS-D7XII」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

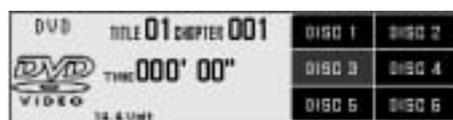
ディスク番号を直接指定する

- 1 SHIFTボタンを押して、ディスク番号表示にします



ディスク番号表示

- 2 ファンクションボタン/1～6で、ディスクを選びます



- 3 RETURNボタンを押して、ディスク番号表示を解除します
ファンクションボタンの機能表示に戻ります。



ファンクションボタンの機能表示



ディスクを入れていないディスク番号は選択
できません

チャプター (トラック) を選ぶ, 早送り/早戻しをする

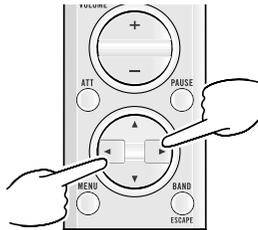
チャプター (トラック) 選択 : ◀/▶ ボタンを0.5秒未満押す

早送り/早戻し : ◀/▶ ボタンを0.5秒以上押す

◀/▶ ボタンを押して, 操作します

▶ : 次のチャプター (トラック) を選ぶ (または早送りする) とき

◀ : 前のチャプター (トラック) を選ぶ (または早戻しする) とき



再生経過時間
チャプター番号

「RS-D7XII」本体の◀/▶ボタンでも, 同様の操作をすることができます。

「チャプター」, 「タイトル」, および「トラック」の詳細については, 組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

ランダム再生

～ DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

選曲をDVDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

ファンクションボタン/2を押して、ランダム再生を始めます

解除するときは、もう一度ボタンを押します。

再生範囲が、トラックリピート (REPEAT) になっている場合は、自動的にディスクリピート (DISC) になります。



クローズ状態では、ランダム再生中は "RANDOM" が表示されます。

スキャン再生

～DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

今聞いているCDの、曲の初めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

- 1 ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を始めます
曲の始めから約10秒間が次々に再生されます。



クローズ状態では、スキャン再生中は“SCAN”が表示されます。

- 2 聞きたい曲が再生されたら、もう一度ファンクションボタン/3を押して、スキャン再生を解除します

このとき再生している曲を継続して再生します。

スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は自動的に解除されます。

トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

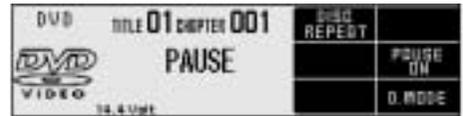
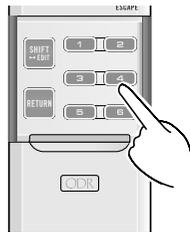
ポーズ

リモートコントローラーオープン状態での操作

DVD/CDの再生を一時停止することができます。

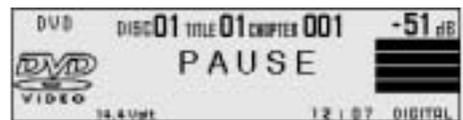
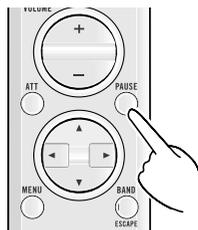
ファンクションボタン/4を押すごとに、ON/OFFが切り換わります

ポーズ中でも、早送り/早戻し以外の機能は操作することができます。



リモートコントローラークローズ状態での操作

PAUSEボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります

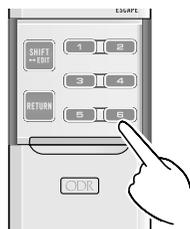


ディスプレイ表示を切り換える

ディスプレイの表示を、通常画面とシンプル画面の間で切り換えることができます。

ファンクションボタン/6を押して、画面を切り換えます

シンプル画面



ディスクタイトル入力について

～DVDプレーヤーでCDを再生しているときの機能です

組み合わせたDVDプレーヤーによっては、この機能は操作できません。

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

DVDディスクにはタイトル入力することはできません。

タイトルは10文字まで記憶できます。

タイトルは、本体のタイトル入力機能と合わせて、最大100枚分の記憶ができます。

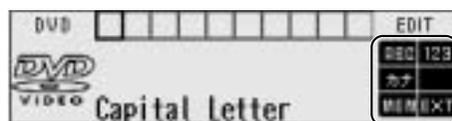
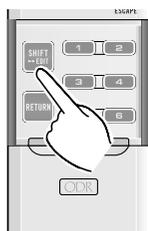
100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

DVDプレーヤーでは、「CD TEXT」にタイトルを入力することができますが、そのディスクを内蔵CDで再生した場合、入力したタイトルは表示されません。（「CD TEXT」のタイトルや歌手名などが表示されます。）

タイトルを入力する（編集モードに切り換える）

タイトルの入力は、編集モードで行います。

- 1 タイトルを入力したいディスクを再生します
- 2 SHIFTボタンを2秒以上押し続け、編集モードに切り換えます
文字入力画面に切り換わり、ディスクタイトルを入力することができます。



ファンクションボタンの機能表示

- 3 タイトルを入力して、記憶させます
22ページを参照して、入力を行ってください。
- 4 記憶させたディスクタイトルが、ディスプレイ上に表示されます



記憶させたタイトルが表示されます。

テレビの操作

テレビチューナーを組み合わせたときに

本機に、別売のテレビチューナーを組み合わせたときの操作を行います。

内 容

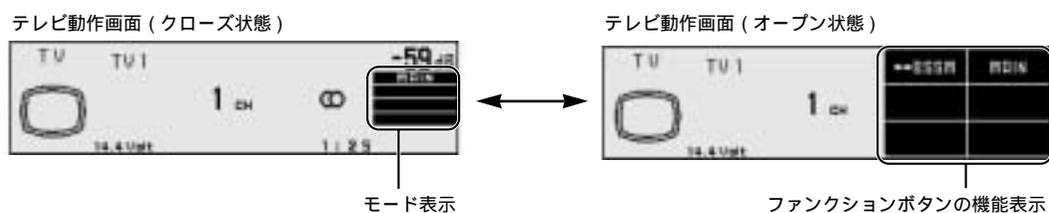
テレビを操作する	80
テレビのON/OFF	80
バンドを選ぶ	80
チャンネルを選ぶ	81
チャンネルを記憶させる	82
記憶させたチャンネルを呼び出す (プリセットチューニング)	84
音声を切り換える	86

テレビを操作する

テレビのON/OFF

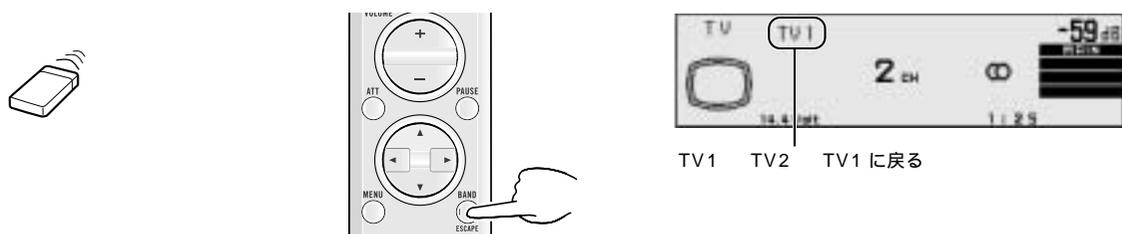
TUNERボタンまたはSOURCEボタンを押して、ソースをテレビに切り換えます
[26, 27ページ参照]

タイトル画面の後、テレビ動作画面に切り換わります。リモートコントローラーのカバーの開閉により、メニュー表示のオープン状態とクローズ状態が切り換わります。



バンドを選ぶ

BANDボタンを押すごとに、次の順で切り換わります



「RS-D7XII」本体のBANDボタンでも、同様の操作をすることができます。



ステレオ放送の受信について

ステレオ放送を受信したときは、ディスプレイにステレオ表示「」が点灯します。

各バンドについて

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。

チャンネルを選ぶ

チャンネルを選ぶには、次の2つの方法があります。

自動選局：◀/▶ボタンを0.5秒以上押す

電波の強さが、ある一定レベル以上のチャンネルを自動的に選局します。

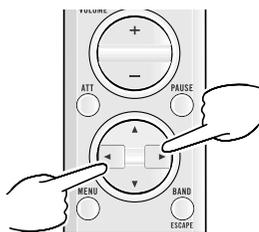
手動選局：◀/▶ボタンを0.5秒未満押す

手動で周波数を合わせて選局します。電波が弱く、自動選局では飛ばしてしまうチャンネルを受信したいときにご使用ください。

◀/▶ボタンを押して、選びます

▶：次のチャンネルを選ぶとき

◀：前のチャンネルを選ぶとき



チャンネル表示

「RS-D7XII」本体の◀/▶ボタンでも、同様の操作をすることができます。

0.5秒以上押し続けている間、途中のチャンネルを飛ばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

チャンネルを記憶させる

各バンドに6局ずつ、チャンネルをファンクションボタン/1～6に記憶させておくことができます。

チャンネルを記憶させるには、次の2つの方法があります。

受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

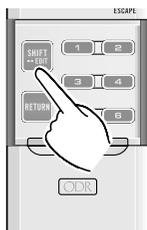
ファンクションボタン/1～6に、お好みのチャンネルを1局ずつ手動で記憶させます。

自動的に6局を記憶させる (BSSM：ベストステーションズシーケンシャルメモリー)

受信状態の良いチャンネルをさがして、自動的にチャンネルの小さい順にファンクションボタン/1～6に記憶させます。

受信中の1局を記憶させる (プリセットメモリー)

- 1 バンドを選びます
- 2 記憶させたいチャンネルを選局します
◀/▶ボタンを押して、記憶させたいチャンネルを受信してください。
- 3 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします

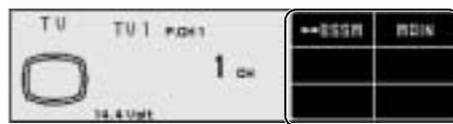
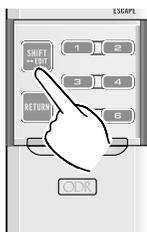


- 4 ファンクションボタン/1～6の1つを2秒以上押し続け、記憶させます

チャンネルがすでに記憶されている場合は、前の記憶が消去されて、新しいチャンネルが記憶されます。



- 5 もう一度，SHIFTボタンを押して，プリセット番号表示を解除します
ファンクションボタンの機能表示に戻ります．



ファンクションボタンの機能表示

自動的に6局を記憶させる (BSSM：ベストステーションズシーケンシャルメモリー)

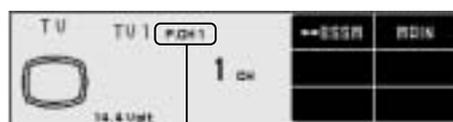
- 1 バンドを選びます
- 2 ファンクションボタン/1を2秒以上押し続け，BSSMを始めます
受信状態の良いチャンネルを自動的に受信して，ファンクションボタン/1～6に記憶します．BSSM動作中にもう一度押すと，解除されます．



記憶終了まで点滅します．

このとき，リモートコントローラーのカバーを閉じても，BSSMは継続されます．

- 3 記憶が終わると，点滅が止まり，ファンクションボタン/1に記憶したチャンネルを受信します



受信中の記憶番号



BSSM機能について

受信状態の良いチャンネルが6局より少ないときは，前の記憶が残ることがあります．

受信状態の良いチャンネルが少ない地域では，BSSMが終了するまでに30秒近くかかることがあります．

記憶させたチャンネルを呼び出すには，次ページのプリセットチューニングを参照してください．

記憶させたチャンネルを呼び出す (プリセットチューニング)

記憶させたチャンネルを呼び出すには、次の2つの方法があります。

順送り/逆送り

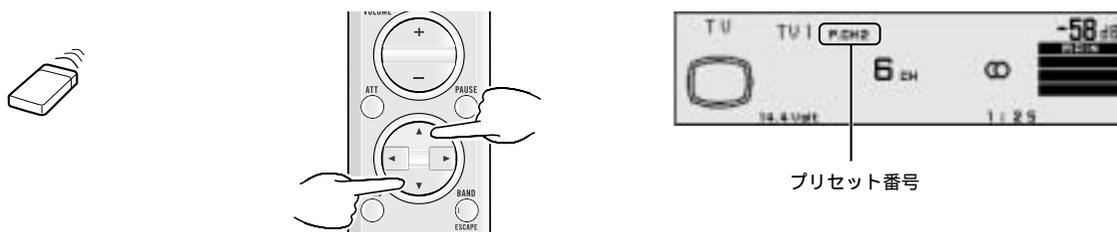
プリセット番号の順送り/逆送りで、記憶させたチャンネルを呼び出します。

プリセット番号を直接指定する

リモートコントローラーのカバーを開けて、メニュー表示をオープン状態にしたときに操作することができます。聞きたいチャンネルが記憶されているプリセット番号を直接呼び出します。

順送り/逆送りで選ぶ

▲/▼ボタンを押すと、プリセット番号が順送り/逆送りされます

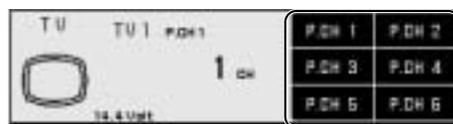
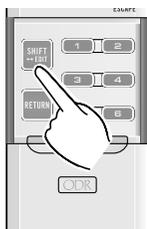


「RS-D7XII」本体の▲/▼ボタンでも、同様の操作をすることができます。

プリセット番号を直接指定する

1 SHIFTボタンを押して、プリセット番号表示にします

ボタンを押すごとに、ファンクションボタンの機能表示とプリセット番号表示が切り換わります。



プリセット番号表示

2 ファンクションボタン/1～6で、プリセット番号を選びます

聞きたいチャンネルが記憶されているプリセット番号を呼び出してください。



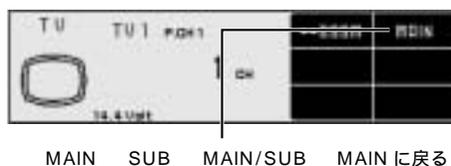
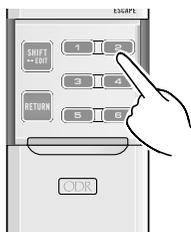
呼び出したプリセット番号が表示されます。

音声を切り換える

2カ国語放送（音声多重放送）を受信しているときは、音声を切り換えることができます。

ファンクションボタン/2を押して、音声を切り換えます

ボタンを押すごとに、MAIN（主音声）とSUB（副音声）が切り換わります。



音声多重放送について

洋画やニュースの2カ国語放送のように、2種類の音声を持った放送のことを音声多重放送といいます。

2カ国語放送の場合は、一般的に主音声を日本語、副音声を外国語（例えば英語）で放送します。（逆の場合もあります。）

付録

“あれ？故障かな？”と思ったときは、修理に出す前に必ず「故障かな？と思ったら」の項をお読みください。本書の検索には、「機能別索引」をお役立てください。

内 容

故障かな？と思ったら	88
チェック表	89
アフターサービスについて	91
機能別索引	92
仕様	94

故障かな？と思ったら

ちょっとした操作のミスで故障と間違えることがあります。故障かな？と思ったら、次のことを行ってください。

- 1 “チェック表” にしたがって、操作をもう一度確認してください

取付説明書および組み合わせたそれぞれの製品の“故障かな？と思ったら”の項もあわせてご覧ください。

- 2 操作にミスがなかった場合は、本機のリセットボタンを押してください

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後

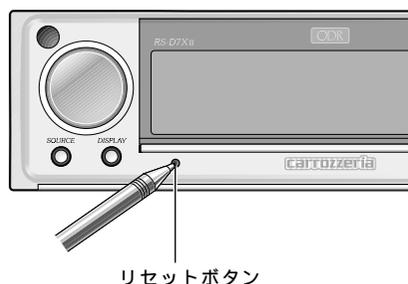
本機が正しく動作しないとき

ディスプレイが正しく表示されないとき

リセットボタンを押すと、本機の記憶（環境設定の内容やチューナーのプリセットなど）が消去されます。もう一度セットしなおしてください。

- 3 リセットボタンを押しても直らないときは...

“アフターサービスについて” [91ページ] をお読みになり、修理を依頼してください。分解したり、注油することはやめてください。



チェック表

共通項目 / オーディオメニュー

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、 もう一度確認してください。	—
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れた ヒューズを同じ容量のものと同交換してください。	—
音が出ない。 音が小さい	音量を下げている。	音量を上げてください。	28
	アッテネーターが ON になっている。	アッテネーターを解除してください。	29
	音量バランスが適切でない。	正しく調整してください。	注
前または後のスピーカー から音が出ない。	フェーダーの調整を誤っている。	正しく調整してください。	注
左または右のスピーカー から音が出ない。	バランスの調整を誤っている。	正しく調整してください。	注

注：接続したオーディオユニットの「オーディオ調整」説明書に記載された“チェック表”をご覧ください。

リモートコントローラー

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
リモートコントローラーが きかない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。	5
	電池が弱っている。	電池を交換してください。	
	電池の ⊕ ⊖ の向きを逆に入れて いる。	正しく入れてください。	
	足元やシートに向けて操作して いる。	リモートコントローラー受光部に向けて 操作してください。	vii, 5
	リモートコントローラー受光部 に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎってください。	5

テレビ / ラジオ

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
“ジージー、ザーザー”と いう雑音が多い。	放送局の周波数またはチャン ネルに合っていない。	正しい周波数またはチャンネルに合わせ てください。	45, 81
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。	45, 81
	回りに障害物があるなど 受信状態がよくない。	受信状態が良くなると、雑音も少 くなります。	—
自動選局で受信できない。	強い電波の放送局がない。	手動選局で選局してください。	45, 81

CD

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
大きな雑音が出る。 再生がストップしてしまう。	ディスクに大きなキズやそりがある。	他のディスクと交換してください。 良くなればディスクの不良です。	32
	ディスクが極端に汚れている。	ディスクの汚れをふき取ってください。	33
	ディスクに曇りや水滴が付いている。	ディスクの曇りや水滴をふき取ってください。	33
	ディスクの表裏を逆にセットしている。	ディスクのタイトル面を上にしてセットしてください。	34
CDの再生ができない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態でEJECTボタンを2秒以上押すと、CDを取り出すことができます。もう一度入れ直してください。	—

CD プレーヤーのエラー表示

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
ERROR 11, ERROR 12 ERROR 17, ERROR 30	CDが汚れているとき。	CDの汚れをふき取ってください。	33
	CDにキズやひびがあるとき。	CDを交換してください。	32
ERROR 14	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用しているとき。	CD-R/CD-RWは録音してからお使いください。	32
ERROR 10, ERROR 11 ERROR 12, ERROR 14 ERROR 17, ERROR 30 ERROR A0	電気系, 機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか, CD再生を一度やめてから, もういちどCD再生にしてください。	—
HEAT	本機の内部温度が高いとき。	内部温度が下がるまでお待ちください。	—
ERROR 44	全ての曲がトラックスキップ指定されているとき。	CDを交換してください。	32

マルチCD再生中に, 上記以外のエラーメッセージが表示されたときは, マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

アフターサービスについて

保証期間について

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買いあげの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買いあげの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買いあげの販売店にお問い合わせください。

機能別索引

共通

音量調節 (ボリューム)	28
瞬時に音量を小さくする (アッテネーター)	29
ソース切り換え	26, 27
ディスプレイオフ機能	30
デタッチャブル フロントパネル	8
電源を入れる	26, 27
電源を切る	26, 27
フロントパネルの開閉	7
ミュート機能	30
文字の入力	22

初期設定

一般環境の設定	17
外部機器の名称入力	18
環境設定モード	11
供給電圧表示	19
時報合わせ	13
操作確認音のON/OFF	20
ディスプレイ明るさ調節	15
ディスプレイの設定	15
ディマー	15
時計の設定	12
時計表示のON/OFF	13
背景パターン選択	16
反転表示のON/OFF	16
メニューロックの設定	21
AUX (外部機器) の設定	17
FMダイバーシティー	20

内蔵CD

スキャン再生	38
選曲 (トラックサーチ)	37
タイトル入力	40
ディスプレイ切り換え	39
早送り/早戻し	37
ポーズ	39
ランダム再生	38
リピート再生	37
「CD TEXT」	33, 41
CD再生のON/OFF	34

チューナー

選局	45
バンド選択	44
プリセットチューニング	48
プリセットメモリー	46
放送局名変更	50
チューナーのON/OFF	44
BSM	47

マルチCD

再生モード	58
スキャン再生	60
選曲 (トラックサーチ)	57
タイトル入力	62
ディスクナンバーサーチ	55
ディスクリスト	64
ディスプレイ切り換え	61
早送り/早戻し	57
ポーズ	61
マルチCD再生のON/OFF	54
ランダム再生	59
「CD TEXT」	63

DVDプレーヤー

再生モード	73
スキップ再生	75
タイトル入力	77
チャプター (トラック) 選択	72
ディスクナンバーサーチ	70
ディスクメニュー画面	68
ディスプレイ切り換え	76
早送り/早戻し	72
ポーズ	76
ランダム再生	74
DVD再生のON/OFF	69
DVDプレーヤーの設定	68

テレビ

音声切り換え	86
チャンネル選択	81
テレビのON/OFF	80
バンド選択	80
プリセットチューニング	84
プリセットメモリー	82
BSSM	83

仕様

CDプレーヤー部

形式 コンパクトディスクオーディオシステム
 使用ディスク コンパクトディスク
 信号フォーマット
 サンプルング周波数：44.1 kHz
 量子化ビット数：16ビット直線
 周波数特性 5～20,000 Hz (±1 dB)

FMチューナー部

受信周波数帯域 76.1～89.9 MHz
 実用感度 .. 9 dBf (0.8 μV/75 ,モノラル) (S/N：30 dB)
 S/N 50 dB感度 14 dBf (1.4 μV/75 ,モノラル)
 S/N 70 dB (IHF-Aネットワーク)
 高調波歪率 0.3% (65 dBf入力 ,1 kHz ,ステレオ)
 周波数特性 30～15,000 Hz (±3 dB)
 ステレオセパレーション . 40 dB (65 dBf入力 ,1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域 522～1,629 kHz (9 kHz)
 実用感度 18 μV (S/N：20 dB)
 実効選択度 50 dB (±9 kHz)

共通部

使用電源 DC 14.4 V (10.8～15.1 V使用可能)
 アース方式 マイナスアース方式
 最大消費電流 4.0 A
 寸法

... Dマウント (フレーム未使用時) :

取付寸法：178 (W) × 50 (H) × 165 (D) mm
 ノーズ寸法：170 (W) × 45 (H) × 15 (D) mm

... DINマウント (フレーム使用時) :

取付寸法：178 (W) × 50 (H) × 160 (D) mm
 フロントフェイス寸法：188 (W) × 58 (H) × 20 (D) mm

重量

..... 本体：1.7 kg (コードユニット含まず)

信号フォーマット

..... サンプルング周波数：44.1～96 kHz
 デジタル出力 光出力 (44.1 kHz)
 デジタル入力 光入力 (44.1～96 kHz)

付属品

コードユニット 1
 リモートコントローラー 1
 取付ネジ類 1式
 取扱説明書 1
 取付説明書 1
 保証書 1
 ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
 乾電池 2

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

この説明書のカバーには、ダイオキシンなどの有害物質や有毒ガスを発生させない素材を使用しています。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

ホームページ

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤル は、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

カーオーディオ/カーナビゲーション製品のご相談窓口 : ☎ **0070-800-8181-11**

: 【一般電話】 **03-5496-8016**

家庭用オーディオ/ビジュアル製品
(PDP・DVDなど)のご相談窓口

: ☎ **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口

: ☎ **0070-800-8181-33**

カタログ請求とメールサービス登録のご案内

<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>

ファックス受付

: **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターにご相談ください。

部品受注センター

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話 : ☎ **0120-5-81095**

: 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス : ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、下記の修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休日は除く）

日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（プラズマテレビのみ受付）

電話 : ☎ **0120-5-81028**

: 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス : ☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話 : 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス : **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2003

<KSNZF> <03100001 > <CRA3564-B >